

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム泉の家
(ユニット名)	一号館
所在地 (県・市町村名)	静岡県浜松市中区泉4丁目28番5号
記入者名 (管理者)	澤中 富佐子
記入日	平成 20 年 4 月 1 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域と手を繋ぎ 安心・安全 暖かな家庭を目指します」を理念とし地域の中で安心した暮らしを支援出来るよう会議、日々の反省会、申し送りの会などで話し合いを行っています。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日申し送りの会を行い、職員一緒に理念を話し、一日の反省点を話し合い伝えております。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	毎月の催し物、出来事、利用者様の生活ぶり等を泉だよりとして ご家族様に送らせて頂き 日々の様子をお知らせしています。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎日散歩に出かけ、近所の人達と挨拶を交わしたり、お話をしたり、近所の方達が、時々ホームに立ち寄って下さる等触れ合う機会が多く、ホームでの催し物の時など足を運んで下さる事もあります。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の催し物など 出来る範囲で参加させて頂いたり、泉地区の回覧板も必ず回って、地元の方々との触れ合いを大切に、又毎年夏休みには 近くの 小学生がボランティアで 数日 遊びに来てくれたりして 地域との 交流がある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、事業所の考え方と取り組み、対応可能な範囲について説明を行っている。特に利用料金や起こりうるリスク、医療連携体制の実際など、特に詳しく説明し同意を得るようにしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度から、思いを察する努力をした運営を心掛けている。利用者の不安意見等は、各階で話し合い出された意見は、運営や日々のケアに活かしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月担当スタッフより 家族便りにて 現在の報告をしている。毎日の様子を 写真や言葉でわかり易く報告を行っている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	手紙や面会時、常に問いかけ 何でも話してもらえる様な雰囲気 作りを 留意している。要望等には、ミーティングで話し合い運営に反映させている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職場会議や号館ノート等を利用して、起きている問題、課題を報告し、全体で話し合いを 行っている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況に応じた対応が出来るよう、利用者様の状態やペースに合わせたローテーションを組んでいる。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者御家族への信頼関係を築く為にも、馴染みの職員が対応する事が重要と考えており、移動や離職がやむを得ない場合もその時期や引継ぎの面で努力をしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>日常的に学ぶ事を推進し、正・準・パートにも チームの一員として研修、会議等の参加を行っている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他のグループ・ホームとのネットワーク作りを行い、その活動、問題点などの意見交換をし、質の向上に取り組んでいる。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員の疲労やストレスの要因について気を配り、勤務時間中にも、気分転換のできる休憩室を確保したりするよう努めている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は、本人の意向を重視しながら、職場内で活かせる環境作りに、勤めている。</p>	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>サービスの利用について相談があった時は、必ず本人に合って心身の状態や、本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れられる様な関係づくりを行っている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>此れまでの家族の苦労や、今迄のサービス利用状況など此れまでの経緯について、ゆっくり聞くようにしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	館内を見学して頂く。(十分納得出来るまでお話をする) 本人や家族の想い、状況等を確認し、信頼関係を築くよう努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事業所の見学に来てもらった時、職員が声かけをし、安心してもらっています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日の行動や体調を把握している。 本人の訴えを良く聞くようにしている。 常に、声掛けをしています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの出来事や気づきの情報、共有に勤めている。 家族と同じ様な思いで 支援しています。 ご本人の訴えを 良く聞いてあげています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	館内での行事に誘う。 毎月「泉の家だより」を送り 入居者様の生活を把握して頂くよう言葉を添えて伝えています。 訪問時には、居心地よく過ごせるよう湯茶を出す。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の話や本人の話を良く聴き交流を 深めて行っています。 年賀状を作成し 送っています。 絵手紙を書いて家族に渡したりしています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合った同士の会話や趣味が行える様、職員が配慮しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	近くに行った時、顔を見に立ち寄るようにしています。又 散歩してばったり会っても、声を掛け合ったり、ホームに遊びにお立ち寄り下さいと、伝えたりしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に声掛けをし、言葉や表情などからその真意を推測したり、それとなく確認する様になっています。家族や関係者から 情報を得る様になっています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生まれてから此れまでの生活歴を把握。その方にとって大切な出来事を知り、その人らしい 暮らしや、尊厳をまもっている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者一人ひとりの趣味に合う事をし、今、何をしようとしているのか何を行いたいのか、分からなく無った時、そっと見守り 声掛けし、支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画に実施期間を明示して、その期間が終了する際、検討・見直しを行う。状態変化に応じた見直し、検討を行っています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間が終了する前に、状態が変化した際には、終了前であっても検討・見直しを行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々に食事・排泄・身体状況・日々の暮らしの変化、様子を記録し、介護計画の見直しを実施している。又、申し送りノートにも記載し、職員が確認出来る様、又、仕事前には目を通す様になっています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者様に満足して頂ける様柔軟な支援を、心掛け又、近郊の方々が、気軽に、足を運んで頂ける様な対応を心掛け催し物の時等、近所の方が、お孫さんを連れて覗いて下さいます。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	二ヶ月に一度運営推進会議の場を持ち、市職員・民生委員・包括支援センター・自治会長・家族代表・主治医を招き意見交換会の場もっています。又、年二回消防訓練に、自治会の方々の立会いで、施行し、年四回泉の家独自でミニ訓練を行っています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の状況、希望に応じて・本・紙芝居と図書館を利用しています。又、入居者様が、三ヶ月に一度理美容を受けられる様、毎月来設して頂き整髪のサービスを受けています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加頂き、情報交換、指導、アドバイス と協力を頂いています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月一回定期的に受診し、利用者様によっては、月二回往診を受けており又、以前からのかかりつけ医に、家族同行受診しており、本人家族の希望に応じて対応しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	受診・往診時に、医師に相談・指示・助言を頂いたり、二十四時間体制で、医師の指示を受けています。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	利用者に何かがあれば、二十四時間気軽に相談が出来、指示を頂き、健康管理や状態変化に応じた支援が、行えるようにしています。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者様の入院時、医師・ご家族様と、連絡を取り、様子を伺ったりまた、職員が、様子を見に伺ったりして、ご家族様と情報交換しながら、退院に繋がるよう支援しています。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者様によっては、終末期に対する対応指針をご家族様と話し合い、医師に相談・指示を仰ぎ、変化があるごとにご家族様、本人の気持ちに注意し、支援出来る様に心がけています。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご家族様の意向を踏まえ医師と連絡。又、職員間の、連絡も細めにとり、急変したときは、即座に対応して頂けるよう医師と、連絡を図り対応しています。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他所へ移られる場合、アセスメント・ケアプラン他、支援状況の情報交換を行い、今迄の、生活環境、支援の内容、注意の必要な点について細やかな情報提供を心がけています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	皆様の前で、「駄目ねーいけないでしょう」とか、ご本人様が、プライバシーを損ねないよう絶えず思いやりのある言葉掛けが、出来るようつとめております。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常の会話の中で好きな事、興味のある事、嫌いな事等、何でもお話がし合える様、成るべく会話を多くする様心掛けております。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ぬり絵をしたり、貼り絵のカレンダーを作ったり、歌を唄ったり、何もしたく無い人、人それぞれ、無理強いしないで その人のペースで過ごしています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	家族の方が、連れて行って下さる方もいらっしゃいます。理美容院の方が、出張して、カットしてもらっています。洋服等は、家族の方が持ってきて下さいます。ご本人の希望の洋服やお洒落を楽しんで貰っています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べやすい形、味付けに配慮しています。利用者様方の食べたい希望を聞いたり、希望の多い献立の日を作っています。食事は、職員も利用者様と一緒に、お弁当を食べます。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	月に何回か、本人の希望する買物に、一緒に行きます。プラモデル・お菓子・図書館等にも行きます。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレの声掛け誘導は、利用者様が、心の傷にならない様絶えず配慮し、排泄パターンも異なっておりますので、その方成りの支援で、排泄の支援を行っています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴希望されない方には、次の日に入ってもらったり、一人でシャワー浴や足浴にして貰ったりと、配慮しております。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	1日中は生活にリズムを持たせ一日の流れの中で、スムーズに夜の寝入りに入れる様、午前中は、散歩や外気浴をしたり、午後はソファで居眠りをしたり、歌を唄ったりゆったりと過ごします。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の片付け・洗濯物の片付け・習字・繕い物・編み物・掲示板の飾り等、その人の好きな事を、日々の生活の中で行っています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により買物等、職員が、同行し、こずかいの額を示して、その商品が買えるかを話し、ご自分でレジ迄持っていく、職員が協力してご本人の財布から支払う喜びを、味わって頂いています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	暖かな日中を選んで外出しています。歩け無い人は、車椅子で外出しています。近くの公園等に行っております。お花の好きな人は、お花の咲いている道を、遠回りして楽しんでおります。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族と一緒になら、何時でも外出も、外泊も、許されています。お迎えの無い方も、皆で初詣やドライブ等、車で出かけます。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じて、日常的に電話が出来る様支援しています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪れる事が出来る雰囲気作りに心がけています。仕事帰りや都合の良い時間に何時でも、訪ねて頂けるような配慮をしています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者様の個人における権利や、身体拘束に関する勉強会を、グループホームの中で実施し、職員の共有意識を図っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りの方法を徹底し、一人一人のその日の気分や、状態をきめ細かくキャッチする事で日中は、鍵を掛けずに自由な暮らしを支援しています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、同じ空間で、記録等の事務作業を行いながら、さり気無く状況を把握する様努めています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者様の状況に合わせてながら、厳重に保管すべきもの、管理が必要なもの、使用時に注意が必要なもの等に分けて管理しています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	予測される危険を検討し、未然に事故を防ぐ為、工夫に取り組んでいます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	行政関係者や、消防署の協力を得て 救急手当や、蘇生時の 研修を実施し、全ての職員が 対応出来る様にしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	独自のマニュアルを作成し、年二回利用者と共に避難訓練を行っています。自治会を通して地域の協力体制にも、理解が得られております。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	様々な役割活動や外出等により、ご自分の出来る力の発揮や、抑圧感の無い暮らしが利用者様の表情を明るくしています。		
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を職員は把握しており、少しでも変化が見られたときは、バイタルチェックを行い記録をしています。状況に応じて医療機関に、受診・往診をしています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルの作成や、処方箋を整理し、職員が内容を把握出来るようにしている。服薬時は、本人に手渡しきちんと服用されているか、確認をしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	腸の働きを助ける補助食品を使用したり、散歩等で体を動かし自然排便が出来る様、取り組んでいます。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声掛けを行い見守りや、介助をしています。 義歯使用の方は、就寝時、洗浄を行っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や・水分の摂取状況を、毎日チェック表に記録しています。その人に合った栄養管理を行っています。「栄養補助食品を飲まれていらっしゃる方もいます」		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	病院からの 指示や、アドバイスがありそれに基づいた取り組みが行われています。 職員と入居者様のインフルエンザ予防接種を実施。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	週一回は、必ずハイターに浸ける(食器・まな板等)手洗いをまめに行っています。 布きん等の日光消毒を行っています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の掲示板に行事の写真等が飾ってある。 花を生けたり玄関先に、プランターを置いて花を育てている。 入り口横にベンチを設置して、何時でも休まれるようになっています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入り口やテーブル等に季節の花が飾ってある。 時間によってカーテンの開閉を行っています。 毎日 掃除をし、清潔を保っています。 掲示板に季節感のある貼り絵が飾ってあります。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室内に使い慣れた家具が設置(タンス・テーブル等) ホール内には、ソファ・テレビ等置きくつろぎの場所になっている。 食席上には、花を飾っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具等を設置(タンス・テーブル等) 趣味のある方は、手作り品を居室内に、飾っている。 好きなポスター等を貼っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気を常に行っています。 時間帯や外気の温度差を見て調整している。 居室・ホールの窓を一日一回開けています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事、出来そうな事については、手を出さず 見守りしたり、一緒に行っています。 利用者の状態に合わせて、手すりや、浴室、トイレ、廊下等安全確保と、自立への配慮をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の戸には、大きな字や、写真を貼り入居者様が、お部屋を間違え無い様になっています。トイレにも大きな字で書き分かるようにしています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関回りに草花を植えている。 ベンチを設置している。		

○			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

▶入居者様27名、昨年より風邪もひかず年を越せた事。 ▶20年1月瑞穂神社へ初詣が、全員お賽銭箱へお金を容れ祈願された事。 ▶防災訓練を泉自治会長様、他2名の協力をして頂き泉の家独自のシナリオのもと行うことができました。 ▶入居者様の糖尿病でたくさんのお薬を飲んでいましたが、病院との連携もあり少しずつ薬が減り、今では完治してしまい元気になりました。 ▶雨の日以外は、毎日全員散歩に行っています。

▶入居者様への支援では、貼り絵・塗り絵・水彩画・編み物・お習字・絵手紙が得意な方々がいらっしゃいます。素晴らしい作品が仕上がっています。 ▶運営推進会議を開催出来るようになり、自治会長・民生委員様の多大なる協力もあり、地域との交流が出来る様になりました。まず、回覧板で泉の家を紹介してくださったり、大正琴のボランティアを披露してくださっています。 ▶静岡新聞に泉の家の紹介を1200部無料にて2度行ってくださったのは嬉しかったです。 ▶泉の家は、家族の方や、知人の方々がよく来館され、他の入居者様との交流も有り和やかな時間を過ごしていらっしゃいます。

▶地区社協だよりに「泉の家」を紹介されました。 ▶泉の防災隊が今年度「モデル隊」になり、泉の家との係わり等で、Aランクに選ばれたそうです。 ▶社会福祉協議会ボランティア紹介有りました。